

政治の影響とディーラーの信念

衆議院が解散され選挙戦に突入した。自民党は地方選の連敗が続き、その原因の一つに麻生首相の考え方や発言のぶれが挙げられた。昨日の両院議員懇談会では本人もそれを認め陳謝した。

確かに政治のトップのポジションに就いている者の発言が短期間に変わると、その人の物事に対する洞察力の深さや判断の的確性が疑われ、指導者としての信用を損なう。朝令暮改は悪とみなされる。

一方為替ディーラーの場合はどうだろう。相場観がぶれない、相場の見方が一貫しているディーラーは信を得られるだろうか。ディーラーが信を得ようとしたら勝たなければならない。市場から退出を迫られるような大きな損失を回避しなければならない。相場よりも自分の信念を優先してしまう人は、長く勝ち続けることはできない。

優れたディーラーの特性は、自分の信念に従って相場を見るのではなく、市場の変動のメカニズムに従って自分の考えを柔軟に変えられる点にある。朝令暮改は善なのだ。

ところで今度の衆院選では民主党が第一党になるとの見方が強い。日本では長く自民党政権が続いたので民主党政権になれば大きな変化だ。大きな政治的变化となれば当然為替にも影響する。

一般的には長く続いた保守党政権の交代は通貨売りになりやすい。新しい政権による不確定要因が嫌われるからだ。特に民主党はこれまで政権を担当したことがないため政策遂行能力は未知数だ。

ただ今後40日間の選挙戦の中で民主党が経済政策を中心にその内容や行程表を明らかにし、国内だけでなく海外にもアピールできれば展開は変わる。例え最初は円売りになっても短期間で終わる。

いくら政治は三流と言われても今回の選挙の結果を市場は無視できないはずだ。